

Vol.18

院長 関の

Face to Face

2009年12月1日発行



『痔』とは、寺に行くまで治らない「つまり死ぬまで治らない」そのくらい治癒しにくい病気と考えられています。痔とは、粘膜でできている肛門周辺が血流障害を起こした静脈瘤です。主な原因は運動不足です。座りっぱなしや立ちっぱなしなど同じ姿勢を続けることはよくありません。また不規則な生活習慣により下痢や便秘を繰り返し、肛門

じっとしては治らない『痔』の話・・・当院の治療法



に圧力を加えたり、不潔になつたり、冷えたりすることともよくありません。加えてバランスの悪い食生活も悪化させる原因になります。肛門という局所の病ですが、原因は生活習慣全般に渡るため、改善することが難しいのもこのためです。全ての疾患に言えることですが改善方法としては、生活習

慣の見直しと治療を併せて行うことをお勧めします。まずはお尻を温め肛門付近の血流を促すためにマツサージで臀部の筋肉を丁寧に緩め、もみほぐします。仙骨も刺激します。続いては鍼で肛門括約筋を支配するツボや腰のツボ、患部付近のツボを優しく刺激します。最後に酸素カプセルです。患部周辺は酸素が通いにくくなっています。酸素カプセルで溶解型酸素を全身に送れば、リンパや神経を通り患部に到達し、痛んだ組織を修復します。

関 修一（せきしゅういち）

健育会 東銀座整骨院・鍼灸院・
整体院 院長

代替医療の総合治療院としての
確立を目指す

タイトルの「face to face」患者
さん自身と向き合っ
て患者さんの
症状と戦うことを願ってつけ
た
* 毎月1日の発行です